



2019年7月29日

日本鉄道労働組合連合会

～航空業界で働く仲間と連帯を強化～

航空連合代表者会議において中期労働政策ビジョンの取り組みを紹介！

7月18日に開催された航空連合代表者会議において、JR連合尾形事務局長が「中期労働政策ビジョン」についてプレゼンテーションを行い、JR連合が取り組んできた労働政策に関わる活動の一端を紹介した。

航空連合は航空業界で働く約4万名の仲間構成されており、JR連合と同じく連合及び交運労協に加盟し、安全はもとより、航空業界に働く労働者の待遇改善に向けて労働運動に取り組んでいる。

航空連合では、加盟する各単組における賃金をはじめとした諸労働条件の引き上げに向けた取り組みを加速するための新たな運動を構築すべく目下検討を行っている。そこで、JR連合がこの間積み重ねてきた「中期労働政策ビジョン」の取り組みを、その参考事例にしたいとの航空連合の意向により今回の場が実現した。

登壇した尾形事務局長は、JR連合が10年前に「中期労働政策ビジョン」を策定した経緯、そして同ビジョンを2度に亘って改訂した際に考慮した論点等について報告を行った。とりわけJR連合に加盟する単組が100を数え、所管する業容、業態も多様化する中、各単組が春闘等において同じ目標を掲げて諸労働条件の向上に努める重要性を伝えるとともに、加盟単組の取り巻く環境に適合した合理的な目標設定の難しさを付言した。



JR連合は今後も連帯の輪を拓げるべく、課題を共有する産別、組織との連帯を深めていく。